

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 3 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23330116

研究課題名(和文) 植民地台湾の経済発展と市場の生成に関する総合的研究

研究課題名(英文) General study on economic development and generation of the market on the colonial Taiwan

研究代表者

須永 徳武 (SUNAGA, Noritake)

立教大学・経済学部・教授

研究者番号：10308091

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,200,000円、(間接経費) 3,060,000円

研究成果の概要(和文)：帝国主義史の観点から進められた日本植民地研究の難点は、植民地経済の宗主国経済への従属性や停滞性を過度に強調してきた点にある。他方で文化的多様性や社会変容に着目する帝国史研究の難点は、分析対象や研究結果を統合的な視角から包括する問題意識が希薄な点にあった。本研究では植民地台湾の経済発展過程を「植民地性」と「市場経済性」の複合的視点から実証性を重視して研究を進めた。普遍的な経済システムとしての市場メカニズムに着目し、植民地期台湾の市場システムに見出せる偏差を市場経済に埋め込まれた植民的特質として把握する視角を重視して共同研究を進めた。

研究成果の概要(英文)：The Japanese colonial study from the viewpoint of history of imperialism made much of rule relations. As a result, subordination and stagnation were emphasized excessively. This is problems. The Japanese colonial studies from the viewpoint of history of empire made much of cultural variety and a social change. It caused the diffusion situations for this results or studies. This is problems, too. So this study of economic developments of colonial Taiwan was pushed forward by the both sides of colonial characteristics and market economy characteristics. And we made much of proof characteristics. we paid attention to market mechanism as a universal system and analyzed a Taiwanese market system. We think with the characteristic of the colony where the deviation was buried in a market economy.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：植民地 台湾 市場 経済発展 鉄道 流通 会社

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究の学術的背景

日本経済史・経営史研究において対東アジア関係の文脈から日本経済の発展のあり方を歴史的に考察することは、従来から重要なテーマと認識されてきた。特に帝国主義論に依拠した日本植民地研究は、レーニンが示した帝国主義モデルの直接適用という隘路を克服しつつ、豊富な実証研究と有用な分析視角を提供してきた。しかし、帝国主義論を基盤とする研究は帝国化過程の中心要因(=独占資本形成や資本輸出)に強い関心を寄せる一方、植民地の社会経済的状况や植民地に住む人々の経済活動などの周辺要因については、軽視するという問題を抱えることとなった。

近代日本を「帝国」の範疇で把握しようとする場合、比較・関係性の視点に基づく海外研究者との共同研究を通じて双方のブラック・ボックスを具体的に解明することが必要である。そして、こうした共同研究の推進は、帝国日本の経済的特質を総体的に特徴づけるための有効な手段である。

2. 研究の目的

本研究は、帝国日本によってさまざまな影響を受けた植民地台湾の経済発展を社会資本の整備や制度移入、植民地市場の生成過程から歴史具体的に解明することを課題とする。その際、(1) 経済発展における日本政府および台湾総督府の役割を相対化しつつ、特に台湾社会経済の歴史的経路依存性に着目して多面的に市場の生成過程とその特色を検証する、(2) 日本国内および朝鮮・満洲との比較から「帝国」内市場の多様性を示す、(3) 研究の推進に当たっては、海外共同研究者との情報共有や議論を重視し、双方の経済史研究者が与件としてきた問題の解決を図ることに留意する。以上の3点を踏まえて共同研究を進展することが本研究の目的であった。

3. 研究の方法

(1) 本研究の課題を達成するため、本研究は論点ごとに研究チームを組織し、資料調査とその分析に取り組む。並行して本研究が対象とする商品・資本・エネルギー各市場を概観し、全体像を捉えたうえで日本や朝鮮・満洲等の比較から植民地台湾市場の特質を抽出し、「帝国」内市場の多様性と統一的「帝国」市場成立の困難性を指し示す。海外共同研究者は、資料収集の支援や研究の総合化に向けた議論、研究成果の提供など、すべての研究過程において研究分担者あるいは連携研究者と同等の役割を果たす。

(2) 交通ネットワーク分析チームの研究課題は、官民交通ネットワークの相互補完性が円滑な物流・流通の実現に資したことを交通機関・荷主双方の役割、あるいは港湾都市の建設過程から明確に実証し、これが日本や朝

鮮等とは異なる、「台湾的市場」を形成したことを指し示す点にある。この問題を実証するために、『台湾総督府公文類纂』(国史館台湾文献館所蔵)、『台湾総督府交通局鉄道部档案』(国家档案管理局所蔵)、『桃崁軽便鉄道会社档案』(桃園汽車客運公司所蔵、非公開)、大阪商船社内資料(商船三井所蔵)、『糖業聯合会資料』(糖業協会所蔵)などの資料収集と研究活用を行なう。

(3) 制度移入分析チームが取り組む課題は、土地調査事業・土地制度改革、民法・商法の対台湾人適用といった、近代的な制度の整備が、台湾人の経済活動に与えた影響を検証するとともに、植民地期台湾における株式会社の諸データの悉皆調査を通じて、その特色を検討することにある。本チームでは、『台湾総督府公文類纂』、『台湾総督府土地関係資料』(土地銀行所蔵、非公開)を収集し研究活用を行う。

(4) エネルギー・農工業分析チームが取り組む課題は、エネルギー供給のあり方を農業機械の普及過程と関連づけ、台湾におけるエネルギー産業の展開は、工業化の側面だけでなく、農業生産力の向上にも寄与したことを実証することにある。本チームは、『台湾電力関係資料』(東京大学経済学部所蔵、未公開)、『台湾総督府公文類纂』を活用して上記の実証を行なう。

4. 研究成果

本研究は帝国日本による様々な制約下にあった植民地の経済発展過程について台湾を中心に経済制度の整備、社会資本の拡充、市場形成の観点から多面的に検討することを課題として設定した。この課題の実証的な解明を進めることを目的に、数度に渡り台湾における史料調査を行った。調査機関は国立中央図書館台湾分館、中央研究院台湾史研究所、国家档案馆などを中心とした。また、台湾における史料状況や研究情報を得るため中央研究院、台湾師範大学、台北大学などの研究者と研究交流と情報交換を行った。これら研究対象地域における史料調査と研究交流は実証的研究の基盤となるものであった。その成果は、後述の研究業績に示されるが、2度の国際シンポジウムの開催と共同研究の公刊に示される。

(1) 国際学術シンポジウム(近代東亞的丘域区域交流與秩序重編〔2012年5月26・27日/国立台北大学〕)

(2) 植民地台湾の社会資本と流通〔2013年12月8日/立教大学〕)

これら2つの国際学術シンポジウムで研究代表者、分担研究者、連携研究者の大半が研究報告を行い、台湾・韓国・日本・中国・アメリカの研究者と活発な討論をおこなった。

また、本研究の成果として、研究代表者である須永徳武編著『植民地台湾の経済基盤と産業』の出版準備を進めており、2014年度中に日本経済評論社から刊行される予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 12 件)

須永徳武「植民地台湾の商工会議所と植民地性」、アジア太平洋討究、査読無、22号、2014、pp. 229-248.

谷ヶ城秀吉「第二次世界大戦直後における三井物産の女性従業員」、アジア太平洋討究、査読無、22号、2014、pp.271-287.

谷ヶ城秀吉「臺灣、中國間貿易的變化與臺灣總督府」、薛化元主編『發展與帝國邊陲日治臺灣經濟史研究文集』、國立臺灣大學出版中心、査読無、2013、pp.113-158.

大島久幸「戦前期三菱商事の海外店舗における現地従業員の役割」、経営経理研究、査読有、98号、2013、pp.67-93.

大島久幸「両大戦間期日豪貿易商社の金融力」、三井文庫論叢、査読無、47号、2013、pp.187-235.

須永徳武「植民地期台湾企業の株主構成と収益性」、立教経済学研究、査読無、第66巻第4号、2013年、pp.47-72.

須永徳武「台湾と満洲の企業構成」、立教経済学研究、査読無、第65巻第4号、2012、pp.31-72.

〔学会発表〕(計 22 件)

大島久幸「1930年代における台湾小運送業の展開」、国際学術シンポジウム「植民地台湾の社会資本と流通」、立教大学(東京都)、2013年12月8日.

島西智輝「近代東アジア石炭市場の拡大と台湾石炭産業の発展」、国際学術シンポジウム「植民地台湾の社会資本と流通」、立教大学(東京都)、2013年12月8日.

渡邊恵一「台湾における糖業鉄道の成立第一次大戦までを中心に」、国際学術シンポジウム「植民地台湾の社会資本と流通」、立教大学(東京都)、2013年12月8日.

谷ヶ城秀吉「帝国日本における海上交通網の変容と流通機構」、史学会第111回大会、東京大学(東京)、2013年11月9日.

湊照宏「台湾史研究の回顧と展望(2)経済史」、早稲田大学台湾研究所ワークショップ(日本台湾学会定例研究会 歴史・経済・政治部会 第85回)早稲田大学(東京都)、2013年10月4日.

谷ヶ城秀吉「ブラジル移民を支えた南米航路と大阪商船」、日本移民史学会第23回年次大会、武蔵大学(東京都)、2013年6月30日.

湊照宏「戦時期台湾の化学企業と軍部：南日本化学工業会社と陸軍」、日本台湾学会第15回学術大会、広島大学(広島)、2013年5月26日.

湊照宏「戦時期台湾の化学企業と軍部：南日本化学工業会社と陸軍」、日本台湾学会第15回学術大会、2013年、5月26日.

湊照宏「戦時における南日本化学工業会社の企業統治：監査役日記から見る株主の対立

と陸軍の介入」、経営史学会関西西部会5月例会、2013年5月25日.

岡部桂史「植民地期台湾の農機具工業」、経営史学会中部ワークショップ、南山大学(愛知県)、2012年12月1日.

渡邊恵一「戦間期における五島慶太の鉄道構想」、鉄道史学会第30回大会、高崎経済大学(群馬県)、2012年10月20日.

岡部桂史「植民地期台湾の農業技術と人的ネットワーク」、国際シンポジウム「近代東亜の区域交流と秩序再編」、国立台北大学、2012年5月27日.

湊照宏「臺灣拓殖會社の直營事業與關係會社」、「近代東亜の区域交流與秩序重編」國際學術研討會、國立臺北大學(台湾)、2012年5月27日.

岡部桂史「三菱商事在米支店の対アジア機械取引」、第81回社会経済史学会全国大会、名古屋大学(愛知県)、2012年5月13日.

〔図書〕(計 3 件)

老川慶喜『井上勝』ミネルヴァ書房、2013年、338P.

谷ヶ城秀吉『帝国日本の流通ネットワーク流通機構の変容と市場の形成』日本経済評論社、2012年、283P.

老川慶喜・須永徳武・谷ヶ城秀吉・立教大学経済学部編『植民地台湾の経済と社会』日本経済評論社、2011年、288P.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

須永 徳武 (SUNAGA, Noritake)
立教大学・経済学部・教授
研究者番号：10308091

(2) 研究分担者

老川 慶喜 (OIKAWA, Yoshinobu)
立教大学・経済学部・教授
研究者番号：10168841

大島 久幸 (OHSHIMA, Hisayuki)
高千穂大学・経営学部・教授
研究者番号：40327995

渡邊 恵一 (WATANABE, Keiichi)
駒沢大学・経済学部・教授
研究者番号：00267387

湊 照宏 (MINATO, Teruhiro)
大阪産業大学・経済学部・准教授
研究者番号：00582917

谷ヶ城 秀吉 (YAGASHIRO, Hideyoshi)
名城大学・経済学部・准教授
研究者番号：30508388

(3) 連携研究者

岡部 桂史 (OKABE, Keishi)
南山大学・経営学部・准教授
研究者番号：60386472

島西 智輝 (SHIMANISHI, Tomoki)
香川大学・経済学部・准教授
研究者番号：70434206

小野 浩 (ONO, Hiroshi)
熊本学園大学・経済学部・准教授
研究者番号：60460010